

来週の市場とレート予想

	9/11(月)	9/12(火)	9/13(水)	9/14(木)	9/15(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,300	ト ン	ト ン	ト ン	△ 2,000
財政他	△ 7,000	+ 3,000	△ 4,000	+ 2,000	△ 14,000
資金需給	△ 5,700	+ 3,000	△ 4,000	+ 2,000	△ 16,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 10年物価連動国債償還		源泉税揚げ		国債発行・償還(2年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 200				貸出支援 △ 4,900
オペスタート	共通担保(全店) + 2,000	国債買入 + 8,800 短国買入 + 7,500 CP等買入 + 3,500			
(日本)	マネーストック(8月) 機械受注(7月) 工作機械受注(7月速報) 日銀当預のマクロ加算残高に かかる基準比率見直し (9-11月積期)	日銀営業毎旬報告(9/10現在) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別 買入額(日銀)	法人企業景気予測調査 (7-9月期) 企業物価指数(8月)		
(海外)		米 有効求人件数(7月)	米 生産者物価指数(8月) 米 財政収支(8月) 欧 ユーロ圏鉱工業生産(7月)	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 消費者物価指数(8月) 英 英中銀、金融政策発表	米 NY連銀製造業 景況指数(9月) 米 小売売上高(8月) 米 企業在庫(7月) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ) 欧 EU財務相理事会 (16日まで)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.015 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、普通交付税の払いある一方、税揚げ日に当ることから前週比2兆7,300億円減の360兆2,500億円から始まった。6日には国債買入オペを主因に増加し361兆2,700億円となった。その後は目立った要因なく微増し、362兆200億円を越えた。無担保コールON物は、週初の普通交付税の払いを受けて、地銀業態中心に調達を控える動きが広まり、4日から7日まで加重平均金利は連日△0.064%と落ち着いた水準で推移した。3日積となる週末は地銀業態に加え、大手行等も調達を控えたことから、より軟調な展開となり、加重平均金利は△0.065%で越えとなった。ターム物は、今積期内にかかる期間では調達ニーズが後退し、△0.05%台でもオファーが残る展開となった。来週は、基準比率見直し(11日)、海外では、米国有効求人件数(12日)、英国金融政策発表(14日)、米国消費者物価指数(14日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.0001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜CP＞

今週の入札発行総額は約4,200億円で、週間償還額の約5,700億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。商社や鉄鋼等の大型案件が連日行われたものの、案件数は少なく、やや閑散な商状であった。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いで、ほぼ横這い推移となった。7日に、CP等買入オペ(3,500億円程度)がオファーされ、7月末の大量発行を受けて応札可能銘柄が多かったこともあり、前回は上昇となった(応札総額8,058億円、落札総額3,500億円、按分足切レート△0.029%、平均落札レート△0.005%)。

来週の償還額は、9,200億円程度となっている。一般事業法人では、9月末の有利負債の圧縮目的で残高調整を行う動きが強く、償還超となる見通し。発行レートは、投資家の運用ニーズの強さからも、引き続きマイナスから0%近辺での出合いが予想される。

＜TDB＞

6日に行われた国庫短期証券6M第706回債の入札は、最高落札レート△0.1823%(前回債△0.1131%)、平均落札レート△0.1983%(同△0.1150%)であった。また、7日に行われた3M第707回債の入札は最高落札レート△0.1864%(前回債△0.1683%)、平均落札レート△0.2040%(同△0.1760%)となり、3M、6Mともに前回債からマイナス幅を拡大する堅調な結果となった。

一方、セカンダリー市場ではやや売りが見られ、週末は3Mが△0.18~△0.17%、6Mが△0.19%の出合いが見られた。

＜レポ＞

足許GCは週初△0.10%~△0.11%の出合いから始まった。国庫短期証券の発行を受け11日受渡しでは△0.09%近辺までレートが上昇した。週末には国債買入・国庫短期証券買入オペが合計1兆6,300億円オファーされるも△0.095%近辺での出合いとなり越えた。

SC取引では10年347回債が引き続きネガティブレートの深い出合いで推移し、10年346回債のBIDが6日の国債買入オペ後に増加した。その他2年378・379回債、5年131・132回債、10年334・335・337・338・344・345・346・347回債、20年161回債、30年55回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。